

Hospital 病院クローズアップ

国立病院機構

三重中央医療センター



院長PROFILE

霜坂 辰一（しもさか・しんいち）
1979年三重大学医学部卒業。

1989年三重大学脳神経外科講師、1990年カリフォルニア大学サンフランシスコ校神経内科研究員（てんかんに伴う神経細胞傷害を研究）、1998年国立三重中央病院脳神経外科医長、2010年三重中央医療センター統括診療部長を経て、2016年同センター院長に就任。

「地域に生き、地域と共に生きる」をスローガンに、
全国レベルの医療水準を持つ地元密着型病院に

当院は救急医療や災害医療の中心であり、5疾病のうち精神科を除く4疾病を、医療計画の5事業のうち3事業（周産期、災害、救急）を担っています。

基本は救急医療ですが、「脳卒中ホットライン」を開設し、脳卒中の場合、24時間365日、ダイレクトに入ってきます。心筋梗塞に関しては「DB90」という90分以内に治療が完結することを目標に展開しています。これも24時間365日の対応です。急性期医療では特に循環器、脳卒中は大事なポイントです。DB90、脳卒中ホットラインに関する勉強会を年に2～3回開き、ご紹介いただいた患者さんの経緯報告を兼ねて、地域のクリニックの先生方と連携した研究会、勉強会を当院で実施しています。

救急においては、「メディカルコントロール」といって、救急搬送した時にその搬送が正しかったかどうかを検証する会を月に1回、消防隊が開いています。その月のすべての搬送の中で、特に気になったケース、あるいは脳や心臓での重症ケースを取り上げ、救急隊の処置が正しいか正しくないかを検証します。これは全国的に展開されています。

今後の当院の目標は、この地域でのブランド化です。「病気になるったら三重中央医療センター」と地域の皆さんに言われるような存在を目指したい。それは結局、「安心で質の高い医療を提供します」ということに尽きるんですね。国立病院機構も今は臨床の指標をつくっていて、他病院といろいろな

テーマに関して全国的に比較できるんですね。それを利用することで、医療の質を高いレベルで保つことが可能になる。このベンチマークというツールによって、当院の良い部分、劣っている部分を客観的に見るができます。それをベースに良いところをさらに伸ばしていくことで、より質の高い、全国的に遜色のない、この地域で全国レベルの医療が展開できると考えています。そこを目指したいのです。

研修の体制ですが、当院の研修医は1学年で6人と多くはありません。そのため、1人に対して手厚くカバーできますし、きめ細かい教育ができる。顔も名前もすぐ覚えられて、疲れ具合なども見ていると分かるんですね。精神的に疲弊してしまう研修医の方も中にはいます。でも、6人ぐらいたど目が行き届いてフォローがしやすい。充実した教育という意味での少人数教育も特徴の1つです。

研修医の皆さんへのメッセージとしては、若いうちに多彩な症例を、忙しい病院で経験するのが良いと思います。失敗を恐れず、いろいろな症例にチャレンジする。若いからこそできる体験がかなりあるものになってものをいいます。ただ、忙しいだけで終わってしまってもったいないので、当院のように少人数でしっかり教育してくれる病院、症例が多く、ほどほどに忙しい病院で経験を積まれることをおすすめします。ぜひ教育体制がきちんとしている施設で、有意義な研修を受けてください。

三重中央医療センター DATA

■所在地

三重県津市久居明神町2158-5
<http://www.miechuo-hosp.jp/index.html>

■病床数

486床（一般450床、結核30床、感染症6床）

■診療科目

内科 / 精神科 / 神経内科 / 呼吸器内科 / 消化器内科 / 循環器内科 / リウマチ科 / 小児科 / 外科 / 整形外科 / 脳神経外科 / 呼吸器外科 / 歯科 / 歯科口腔外科 / 麻酔科 / 心臓血管外科 / 皮膚科 / 泌尿器科 / 産科 / 婦人科 / 眼科 / 耳鼻咽喉科 / リハビリテーション科 / 放射線科

■研修の特色

1人に対して手厚い指導ができる少人数制です。研修では主治医として責任を持って診療できるように指導します。コモンディーズから実質三次救急疾患まで、豊富な症例が経験できます。5つの専門科の連携もスムーズで、各科の症例検討会や学会活動、勉強会以外にも、全体の症例検討会や学会活動にも取り組んでいます。救急研修では多種多様な救急診療が経験できます。



新生児集中治療室 (NICU)



新生児救急車 すくすく号



すくすく号 内部



津城角櫓

三重中央医療センターのある街

温暖で自然が豊か、東京へのアクセスも良い住みやすい街

三重県の県庁所在地である津市は、日本のほぼ中央に位置し、鉄道、空港などへのアクセスも良い。1年を通じて温暖な気候で、豊かな自然に恵まれている。映画の舞台にもなった美杉地域の癒しの森は、東海地方で初めて森林セラピーの認定を受けた場所で、現在12個のセラピーロードが設けられている。

久居地域にある榊原温泉は清少納言の「枕草子」で詠われた「七栗の湯」でもあり、古くから伊勢神宮にお参りする前に身を清める「湯ごり」の地としても知られる。無色透明で美肌の湯と言われている。

ご当地グルメには、学校給食から生まれた15cmの皮で具を包み、油で揚げた「津ぎょうぎ」や、津市発祥の天むす、春を告げる魚として知られる小女子、親芋を植え付けて数年かけて収穫した地場産の生芋を使用して作られる手作りこんにやくなど、多彩な食文化でも知られる。

お菓子好きな人には是非行ってもらいたいの工場見学だ。津市にはベビースターラーメンや野田あられなど、全国で有名なお菓子の本社工場があり、無料で見学できる施設が多い。お菓子の他にもお酢やお醤油の工場見学もできるので、工場見学に興味がある人には楽しい場所だ。

